



2027年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年8月12日

上場会社名 株式会社ZUU 上場取引所 東
コード番号 4387 URL <https://zuu.co.jp>
代表者 （役職名） 代表取締役 （氏名） 富田 和成
問合せ先責任者 （役職名） 取締役 （氏名） 樋口 拓郎 TEL 03-4405-9086
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：無

（百万円未満切捨て）

1. 2027年3月期第1四半期の連結業績（2026年4月1日～2026年6月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2027年3月期第1四半期	807	41.8	120	—	78	—	202	—	20	—
2026年3月期第1四半期	569	△21.4	△192	—	△203	—	△208	—	△235	—

（注）包括利益 2027年3月期第1四半期 △340百万円（－％） 2026年3月期第1四半期 449百万円（84.6％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2027年3月期第1四半期	4.35	—
2026年3月期第1四半期	△49.57	—

（注）2027年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2026年3月期第1四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。

（注）EBITDAは、営業利益に減価償却費及びのれん償却額を加算して算出しております。

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2027年3月期第1四半期	18,454	13,507	5.8
2026年3月期	17,454	11,875	5.9

（参考）自己資本 2027年3月期第1四半期 1,075百万円 2026年3月期 1,027百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2026年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2027年3月期	—				
2027年3月期（予想）		0.00	—	0.00	0.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2027年3月期の連結業績予想（2026年4月1日～2027年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	2,949	11.6	173	—	53	—	440	—	10	2.10

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有
新規 1社 (社名) 株式会社グローバルマーケティング
除外 ー社 (社名)

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

- (4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2027年3月期1Q	4,749,860株	2026年3月期	4,749,860株
② 期末自己株式数	2027年3月期1Q	224株	2026年3月期	224株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2027年3月期1Q	4,749,636株	2026年3月期1Q	4,749,636株

- ※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 経営成績等の概況(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社の決算補足説明資料は決算発表後速やかに当社ウェブサイトに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期連結累計期間の経営成績の概況	2
(2) 当四半期連結累計期間の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(重要な後発事象)	12

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期連結累計期間の経営成績の概況

当第1四半期連結累計期間における世界経済は、2022年2月以来継続するロシアによるウクライナ侵攻の長期化に加え、中東情勢においてもイスラエル・イラン間の緊張が高水準で推移する中、エネルギー価格の不安定な動向が世界経済の下押しリスクとなりました。米国トランプ政権が相互関税を含む大幅な輸入関税政策を打ち出した影響は当四半期に入り国際貿易全般に本格的に波及し、各国・地域において供給網の再編や輸入物価の上昇圧力が顕在化しており、世界経済全体に対する先行き不透明感が一段と強まっております。

我が国経済においては、こうした地政学リスクやエネルギーコストの高止まりに起因する輸入物価の上昇が続く中、2026年春闘では3年連続となる歴史的水準の賃上げが確認され、企業収益は全体として高水準を維持いたしました。日本銀行は物価の上振れリスクを踏まえ、2026年6月の金融政策決定会合において政策金利を0.75%から1.00%へ引き上げ、長期にわたる金融緩和と政策の段階的な正常化を進めております。円相場については、政府・日本銀行が4月末から5月初にかけて為替介入を実施したものの、6月には再び1ドル160円台へと円安が進行し、輸入コストの高止まりが続きました。個人消費は賃上げに下支えされつつも、物価上昇による実質購買力の圧迫から消費マインドは慎重な状況が続いており、先行きには依然として慎重な見方が広がっております。

当社グループを取り巻く事業環境におきましては、ファイナンスセグメントにおいては、金利上昇局面においても経営者・富裕層を中心とした資産運用・資金調達ニーズは旺盛に推移しており、既存金融機関が対応しにくい成長ステージ企業へのリスクマネー供給重要性がますます高まっております。グロースセグメントにおいては、インターネット広告媒体費が2025年実績で前年比111.8%の3兆3,093億円（出所：株式会社電通/2026年3月）、2026年には3兆5,840億円への拡大が予測されており、市場は引き続き成長基調にあります。また、中堅・中小企業においてはAI活用・DX推進が最重要経営課題として広く認識される一方、大企業との導入格差が拡大しており、当社グループが提供する経営コンサルティング・デジタルマーケティング支援へのニーズは高まっております。

このような環境の中、当社グループは「機会格差を解消し、持続的に挑戦できる世界へ」というパーパスの下、2027年3月期を「グロース&ファイナンス一気通貫プラットフォームの本格収益化フェーズ」と位置づけ、前期の構造改革の成果を業績に結実させる取り組みを推進してまいりました。なお、2027年3月期より従来の「フィンテック・トランザクション事業」を「ファイナンスセグメント」に、「フィンテック・プラットフォーム事業」を「グロースセグメント」にそれぞれ名称変更するとともに、2026年4月1日付でデジタルマーケティングコンサルティングに特化した株式会社グローバルマーケティング（議決権70%取得）を連結子会社化し、グロースセグメントのサービス提供体制を強化しております。また、2026年3月19日に発生した資金流出事案（96百万円）について、外部専門家による特別調査の結果を踏まえた再発防止策（送金承認プロセスの抜本的見直し・経理部門の人員増強・内部監査機能の強化等）を着実に実施してまいりました。

その結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高は807,154千円（前年同期比41.8%増）、営業利益は78,375千円（前年同期は営業損失203,783千円）、経常利益は202,849千円（前年同期は経常損失208,699千円）、親会社株主に帰属する四半期純利益は20,654千円（前年同期は四半期純損失235,448千円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次の通りであります。

当社グループは、成長企業の事業の成長と資産の形成を一気通貫で担うプラットフォームを目指し、事業成長を支援する「グロース事業」と、資金調達支援及び資産運用管理を担う「ファイナンス事業」を新たな事業ポートフォリオと再定義しており、それぞれの強化に注力しております。

よって、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントを従来の「フィンテック・プラットフォーム事業」及び「フィンテック・トランザクション事業」から「グロース事業」及び「ファイナンス事業」の報告セグメントへ変更しております。

主な変更点は以下の通りです。

不動産/金融DX支援

従来「フィンテック・プラットフォーム事業」に含めていた「不動産/金融DX支援」を、「グロース事業」セグメントへ移管いたしました。

経営コンサルティング及び経済界

従来「フィンテック・トランザクション事業」に含めていた「経営コンサルティング」及び「経済界」を、「グロース事業」セグメントへ移管いたしました。

新規グループ化企業の取り扱い

2026年4月1日付でグループインした株式会社グローバルマーケティングにつきましては、「グロース事業」セグメント（デジタルマーケティング領域）に含めて記載しております。

なお、以下の前年同四半期比較については、前年同四半期の数値を変更後のセグメント区分に組み替えた数値と比較しております。

（グロース事業）

前期に実施した送客事業の合併会社化により、フィンテック・プラットフォーム事業から送客事業が外れ、金融・不動産DX事業やデジタルマーケティングコンサルティング事業の事業構成となりました。その結果、売上高は275,305千円（前年同四半期比10.3%減）、営業損失は41,341千円（前年同四半期は営業損失93,193千円）となりました。

（ファイナンス事業）

本体・金融子会社を活用し、中小・中堅企業の事業成長支援・資金調達支援を行い、金融トランザクション収益が順調に伸びを示しました。その結果、売上高は531,849千円（前年同四半期比102.7%増）、営業利益は119,717千円（前年同四半期は営業損失110,589千円）となりました。

なお、当社グループが運営するファンドにおける当第1四半期連結累計期間の経営成績に与える影響は、次の通りであります。

当社グループが運営するファンドが保有する投資有価証券の一部について、利息収入を得たことにより、有価証券利息107,485千円を営業外収益に計上しております。

当社グループが運営するファンドが保有する外貨建て資産について、期末為替レートによる評価替えを行ったことにより、為替差益を営業外収益に16,828千円計上しております。

当社グループが運営するファンドが保有する投資有価証券の一部について、売却を進めたことにより、投資有価証券売却損38,392千円を特別損失に計上しております。

当社グループが運営するファンドにおいて組合員に帰属する損益について、匿名組合損益分配額40,067千円を計上しております。この匿名組合損益分配額は、匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純利益から控除しております。

（2）当四半期連結累計期間の財政状態の概況

（資産）

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は5,241,882千円となり、前連結会計年度末に比べ866,353千円減少いたしました。これは主に売掛金が306,915千円増加し、現金及び預金が400,265千円、営業貸付金が750,000千円、預け金が15,614千円減少したことによるものであります。固定資産は13,212,858千円となり、前連結会計年度末に比べ1,866,299千円増加いたしました。これは主にのれんが204,282千円増加し、投資有価証券が1,615,105千円増加したことによるものであります。

この結果、総資産は18,454,740千円となり、前連結会計年度末に比べ999,945千円増加いたしました。

（負債）

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は4,357,590千円となり、前連結会計年度末に比べ604,995千円減少いたしました。これは主に買掛金が99,833千円、未払法人税等が20,807千円増加し、匿名組合出資預り金が740,000千円減少したことによるものであります。固定負債は589,915千円となり、前連結会計年度末に比べ26,608千円減少いたしました。これは主に長期借入金が45,505千円、繰延税金負債が17,770千円増加し、長期未払金が90,000千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は4,947,506千円となり、前連結会計年度末に比べ631,603千円減少いたしました。

（純資産）

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は13,507,234千円となり、前連結会計年度末に比べ1,631,549千円増加いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益20,654千円を計上し、非支配株主持分が1,584,868千円増加したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は5.8%（前連結会計年度末は5.9%）となりました。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年5月15日公表の連結業績予想に修正はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

（1）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,772,868	1,372,602
売掛金	88,218	395,134
仕掛品	68	271
営業貸付金	3,830,000	3,080,000
預け金	187,469	171,855
その他	233,329	225,690
貸倒引当金	△3,718	△3,670
流動資産合計	6,108,236	5,241,882
固定資産		
有形固定資産	241	22,182
無形固定資産		
のれん	231,088	435,370
その他	210	210
無形固定資産合計	231,298	435,580
投資その他の資産		
投資有価証券	11,009,152	12,624,257
敷金及び保証金	95,968	114,435
繰延税金資産	909	3,258
その他	8,987	13,143
投資その他の資産合計	11,115,018	12,755,094
固定資産合計	11,346,558	13,212,858
資産合計	17,454,795	18,454,740
負債の部		
流動負債		
買掛金	20,694	120,528
短期借入金	400,000	400,000
1年内返済予定の長期借入金	140,940	148,692
未払金	324,718	314,457
未払法人税等	30,206	51,013
契約負債	110,472	115,428
匿名組合出資預り金	3,830,000	3,090,000
顧客預り金	21,491	10,092
株主優待引当金	11,595	8,203
その他	72,467	99,174
流動負債合計	4,962,586	4,357,590
固定負債		
長期借入金	329,496	375,001
長期末払金	205,785	115,785
繰延税金負債	53,992	71,763
資産除去債務	27,249	27,364
固定負債合計	616,523	589,915
負債合計	5,579,109	4,947,506

（単位：千円）

	前連結会計年度 (2026年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	879,556	879,556
資本剰余金	880,433	15,877
利益剰余金	△827,394	57,816
自己株式	△445	△445
株主資本合計	932,149	952,803
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	102,650	129,577
為替換算調整勘定	△7,341	△7,200
その他の包括利益累計額合計	95,309	122,377
新株予約権	58,899	57,859
非支配株主持分	10,789,326	12,374,195
純資産合計	11,875,685	13,507,234
負債純資産合計	17,454,795	18,454,740

（2）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
（四半期連結損益計算書）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）
売上高	569,184	807,154
売上原価	274,796	141,459
売上総利益	294,387	665,695
販売費及び一般管理費	498,170	587,320
営業利益又は営業損失（△）	△203,783	78,375
営業外収益		
受取利息	4,158	32
有価証券利息	—	107,485
為替差益	—	16,828
持分法による投資利益	2,071	3,902
その他	32	1,362
営業外収益合計	6,263	129,611
営業外費用		
支払利息	2,101	4,752
支払手数料	375	373
為替差損	8,703	—
その他	0	11
営業外費用合計	11,179	5,137
経常利益又は経常損失（△）	△208,699	202,849
特別利益		
新株予約権戻入益	1,890	967
投資有価証券売却益	27,092	—
特別利益合計	28,983	967
特別損失		
投資有価証券売却損	—	38,392
特別損失合計	—	38,392
匿名組合損益分配前税金等調整前四半期純利益又は純損失（△）	△179,716	165,424
匿名組合損益分配額	29,067	40,067
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失（△）	△208,783	125,357
法人税、住民税及び事業税	14,898	51,964
法人税等合計	14,898	51,964
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△223,681	73,392
非支配株主に帰属する四半期純利益	11,767	52,738
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△235,448	20,654

（四半期連結包括利益計算書）

（単位：千円）

	前第1四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）
四半期純利益又は四半期純損失（△）	△223,681	73,392
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	672,822	△414,289
為替換算調整勘定	78	140
その他の包括利益合計	672,901	△414,148
四半期包括利益	449,219	△340,756
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	△168,702	47,721
非支配株主に係る四半期包括利益	617,921	△388,477

（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

当社は、2026年6月24日開催の定時株主総会において、資本剰余金を864,556千円減少し繰越利益剰余金に振り替え、欠損を補填することを決議いたしました。これに伴い、当第1四半期連結累計期間において資本剰余金は864,556千円減少し、利益剰余金は864,556千円増加しております。

（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）

（税金費用の計算）

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記）

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費及びのれんの償却額は次の通りであります。

	前第1四半期連結累計期間 （自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）	当第1四半期連結累計期間 （自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）
減価償却費	280千円	4,877千円
のれんの償却額	11,429千円	37,717千円

（セグメント情報等の注記）

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額 （注）1
	グロース	ファイナンス	計		
売上高					
外部顧客への売上高	306,858	262,326	569,184	—	569,184
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	306,858	262,326	569,184	—	569,184
セグメント損失（△）	△93,193	△110,589	△203,783	—	△203,783

（注）1. セグメント損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間（自 2026年4月1日 至 2026年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益計算書計上額 （注）1
	グロース	ファイナンス	計		
売上高					
外部顧客への売上高	275,305	531,849	807,154	—	807,154
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	275,305	531,849	807,154	—	807,154
セグメント利益又は損失（△）	△41,341	119,717	78,375	—	78,375

（注）1. セグメント利益又は損失（△）は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

「グロース事業」セグメントにおいて、株式会社グローバルマーケティングを連結子会社化したことに伴い、のれん242,000千円が発生しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、成長企業の事業の成長と資産の形成を一気通貫で担うプラットフォームを目指し、事業成長を支援する「グロース事業」と、資金調達支援及び資産運用管理を担う「ファイナンス事業」を新たな事業ポートフォリオと再定義しており、それぞれの強化に注力しております。

よって、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントを従来の「フィンテック・プラットフォーム事業」及び「フィンテック・トランザクション事業」から「グロース事業」及び「ファイナンス事業」の報告セグメントへ変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。